

# 茶話会『先輩と話そう！文学部学生交流会』第一回

第1回(日時：2010年2月15日15時～17時、会場：文学部新館第7講義室)

## 報告

このたび「学生相談室プロジェクト」では学生相談室開設準備の一環として、茶話会『先輩と話そう！文学部学生交流会』を開催いたしました。主に文学部の1、2回生を対象に、進学、就職、教職取得、生活全般など平日頃抱えている悩みや疑問について、上回生や大学院生の先輩と気軽に話し合う機会を設ける、という意図のもとに企画されたものです。

この種の試みは文学部では前例がなく手探りで準備を進めざるをえませんでした。しかし赤松教授を始め、文学部教務係や各研究室など各方面からのお力添えもあり、どうにか第1回会合の開催にこぎ着けることができました。ご協力賜りました皆様にはこの場を借りて篤く御礼を申し上げます。

当日はあいにくの雨となり、どれほどの来場者があるか心配でしたが、いざ蓋を開けてみると予想を上回る出足で、結局総勢50名近い参加者のもと交流会は盛況のうちに終了いたしました。15時より、小林研究員の司会で全体の趣旨説明、四つのブース(進学、就職、教職、生活)および責任者の紹介、協力して下さる学部4回生および院生の方々の紹介がなされ、その後自由歓談となりました。途中、学友会からの連絡、読書会の案内、当プロジェクトによる「文学部所属学生の意識調査」の結果報告などを間に挟み、再び自由歓談となり、17時頃散会いたしました。

開催のタイミングや周知期間の短さなど、必ずしも有利とは言えない要因が幾つかあったにもかかわらず、これだけの参加者が集まった背景には、1、2回生の間にこの種のサポートに対する大きなニーズがありながら、それが満たされていないという現状に対する強い不満あるいは不安があるように思われます。

会合を終えてみて今後改善すべき運営上の問題点も浮かび上がってきました。参加者の皆様からも貴重なご意見を賜りました。これらをふまえて次回の交流会はより充実したものにしたいと考えております。今後ともご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

## 交流会に参加して下さった学部1、2回生の声

- 今回の交流会では、どのようなことを相談しましたか。
  - 院で研究したいことがはっきりと決まっていない。
  - 大学院に行くために何をしておくかについて。
  - 院の研究のあり方、修士としての将来性など。
  - 院の研究室の様子・奨学金・教職科目のことなど。
  - 今から何をしていけばいいか。教職と専門のバランス。

- 教職と学芸員など、複数の免許を同時にとれるか。
- 研究室のこと、司書資格のこと、語学のことなど。
- 教育実習の手順や時期について。
- 語学の学習法などなど。
- 就職、OB 訪問についてなど。
- 今回の交流会に参加にしてよかったと思う、その理由を教えてください。
  - 楽しかった。
  - 先輩と話す機会がなかったから。
  - 今まで話したことのない様な専修の先輩方と話せたから。
  - 進学希望なので、普段接触の少ない院生に話が聞けたから。
  - 院生・ポスドクの方々にたくさんお話をきけたので。
  - 院・就職両方の話を同時に直接きけました。
  - 就職や進学などでの疑問を解決することができた。
  - 大学院や就職・奨学金などについて詳しく聞けたから。
  - 研究室のこと、留学のこと、進路のことなど、いろいろな話をうかがうことができたから。
- 今後の交流会開催のために、ご意見・ご要望があれば教えてください。
  - 今日のように、先輩方と気軽にお話できる場が今後もあると有難いです。
  - 年に数回開いていただくと、多くの学生が参加できていいと思います。
  - 系選択や専修選択の前に複数回してほしい。ガイダンスは気になるところがかぶると行けないので。
  - 全専攻の方がいらっしゃればなお良いと思います。私は幸いいらっしゃいました。
  - 心理・言語・地理等の院生の方のお話も聞いてみたいです。

#### サポーターとして参加して下さった学部4回生・院生の声

- 今日の交流会でどのような相談を受けましたか。
  - 学業と就職活動を両立させられるかどうか。
  - 文学部で上手く就活できるのか不安。
  - 文学部卒業生の就職先について。
  - 就職活動の時期。院試か就活かの選択。公務員試験か民間かの選択。面接で聞かれること。エントリーシート書き方。国 I か地方上級か。予備校か独学か。
  - 教員免許のとり方。教育実習、介護体験等の実習について。
  - 教職について。自分の専修と異なる教科の取得を目指している。
  - [1 回生から]日本史の専門の授業とはどういうものか、研究ってどういう風

- にやるかなど。
- 美学でどんなことが出来るのか（社会学、哲学、文学 etc との違い）。
  - 研究室の雰囲気について。研究室所属学生・院生の就職先。2 回生の過ごし方。3 回生以降の授業・単位など。司書などについて。留学など具体的な研究生生活について。
  - 語学の勉強の仕方。院試の問題を見て現在[1 回生]の語学力に不安を感じる。
- 学部生のやりとりの中で、気付いた点がありましたら教えてください。
    - 1 回生から進路について不安に思っている人が多い。
    - 各研究室の傾向についての情報不足。先輩の体験・経験談の不足。→いろいろな不安が生まれてしまっている。
    - 大学院ってどんなトコ？、何してるの？、研究室って入りづらいですね等の話が多くありました。何をしているか何をする所か、実態が見えないようです。また「これまでのガイダンスでは訳が分からない!!」という話もありました。
    - 1 回生の人などは、今後の学生生活の具体的な設計がまだ定まっていない人がほとんどであると思う。単に、就職や教職の情報を断片的に紹介するだけでなく、もう少し、流れをつけて体系的に紹介する必要があるのではないかと感じた。
    - 昔より経済的困難に対する危機感が強まっている印象を受けた。
    - 進学希望の人に対して、理想と現実をどう話すべきか迷いました。
    - 交流会という、今回のような形式の場でも、直接先輩に話しかけることをためらっているように見える学生もいた。今回不参加の学生のなかにも、相談したいが切り出せないという人もいるのではないかと。
  - 今後の交流会開催のために、ご意見・ご要望があればお聞かせください。
    - 素朴なギモンをぶつけられる場所としてとても良いと思います。院生側としても後輩の話を聞く場として有益でした。
    - 定期的にあるといいと思う。
    - またやると思います。このような機会は多いほどいいのではないのでしょうか。
    - 学生が多い時期にするほうがいいかもしれません。また春の時期、新入生向けにもあればいいかもしれません。
    - 事前に院生だけで集まってお互いの関係性を築いておけば、学部生への対応ももう少しスムーズにできるかと思います。
    - 途中退室自由というのを明確に断っておいた方が気軽に入りやすいと思います。
    - 相談を受ける院生の簡単な自己紹介を記した紙（名前、所属、経歴、趣味、

- アピールなど)が必要。来た人が誰に聞けばいいか分かりやすくするために。
- 交流会で各研究室の場所、開室状況など(例えば何曜日何時に当番常駐など)をお知らせするのはいかがですか。
  - 席が自由になる会場が良いかと思えます。
  - ゆっくりすわって話せるようなテーブル、イスの配置であれば、もっと話しやすかったかもしれない。
  - 立って自由に話す形式は、積極的に話せる人にとっては良いと思うが、話が苦手な人にとってはややつらい面もあると感じた。最低限の会話の場というものを設けるのもいいかと思えます。
  - もう少し仕切りをテンポよくしてほしいです。
  - 段取り等しっかり。広告の仕方などは今回ので良かった？
  - 学部生がとつきやすいようにするには、少し演出するとよいのではと感じました。明るい服装、ポジティブな雰囲気、研究って大変だけど楽しい！みたいなのが基調にあるともっと気軽に参加できそうです。でも全体的に少人数ですが、やる気のある学部生に有益な情報を与えられた気がして、有意義でした！「文院教」の話もおうかがいしましたが、むしろこういう感じで院生同士の交流が気軽に出来る場があったら素敵かと思えます。
  - 院生どうしの交流会がもっと頻繁にあった方がいいと思えます。
  - 学部生の相談と(院生の)交流を混ぜるのはあまりよくないのでは。院生向けのお話などの時間は退屈そう。
  - 「学部生のための企画」と「院生向けの連絡・協力のお願い」などは別の趣旨なので、分けて行う方が良いのではないのでしょうか。学部生がびっくりしてしまいます。